

たんぱん通信

2024年
新春号
Vol.64

たかが咳、されど咳



公立丹南病院 内科部長
中屋 孝清

みなさん、こんにちは。2016年4月から丹南病院で内科を担当している中屋孝清です。一般的な疾患についても診療していますが、その中でも呼吸器内科を専門としています。

呼吸器内科は呼吸に関わる気管（支）、肺に関連する疾患を扱いますが、疾患の範囲は肺炎や肺結核などの感染症、気管支喘息や肺気腫などの炎症性疾患、睡眠時無呼吸症候群、肺癌など幅広い疾患を診断・治療の対象としています。そのため、呼吸器内科の対象となる患者さんは、内科では循環器内科、消化器内科と並んで多いとされていますが、専門医の数は約2分の1から3分の1と少ないです。

福井県には呼吸器内科の専門医は40名しかおらず、そのうち丹南地区の医療機関では私を含め2名しかいません（2023年10月31日現在）。

呼吸器疾患のうち、症状としては咳が最も多いですが、ここ数年の新型コロナウイルス感染症に対するマスク着用などの社会行動の変化もあり、咳をすることがはばかれるような状況になっていますので、皆さんの中には咳が出て周囲の目が気になったことがある方もいると思います。そこで今回は咳についてお話しします。

咳は体の生理的な反応ですが、様々な原因を背景に症状が出現します。最も身近なものでは

ウイルスや細菌感染による咳で、いわゆるかぜに伴うものです。この場合、多くは数日の経過で症状が改善し、鎮咳薬が有効です。



それ以外にも、咳喘息や気管支喘息といった気道過敏性の亢進に伴う咳があり、こちらは鎮咳薬が効かない、夜から朝にかけて咳が多い、咳が出始めるとなかなかおさまらないなどの特徴があります。

治療はステロイド吸入薬が有効です。肺結核、肺癌などの肺病変が原因で咳が出る場合もあり、診断や治療を速やかにすることが必要です。

以上のように咳の出る疾患にはいろいろありますが、2週間以上咳が続き、症状の改善が認められない場合は、その原因の精査と治療を行う必要がありますので、医療機関への受診をお勧めします。

丹南病院では咳を主訴とした患者さんの診断に有用な呼気NO₂、肺機能、胸部レントゲンやCTなどの検査が可能です。





訪問看護ステーション事業所紹介

いつでもお気軽に
訪問看護にお声かけ下さい!



訪問看護ステーション 室長 竹内 由紀子

「公立丹南病院訪問看護ステーション」は2004年6月に設立され、今年で19年目を迎えました。

現在職員は、看護師10名（常勤6名、病院兼務4名）、理学療法士1名、作業療法士非常勤1名、事務員常勤1名の13名です。医療ニーズの多様化や昨今コロナ禍による病院などでの面会制限の影響もあり、昨年度は癌の終末期など自宅看取りが18件（令和元年度8件）と、自宅看取りの件数は年々増加しています。

そこで突然ですが、皆さんは人生の最期をどこで迎えたいと思われますか？ 日本財団が67～81歳の方（当事者）と35～59歳の高齢の親を持つ方（子世代）に対して、人生の最期の迎え方に関する全国意識調査¹⁾を実施した結果によると、約6割の方が人生の最期を迎えたい場所に「自宅」を選んでいました。当事者は最期を「自宅」で迎えたく、子世代も親を「(親の)自宅」で迎えさせたいと思っということがわかりました。とは言え、当事者は「家族に迷惑をかけたくない」と思い、子世代は「何をしたらよいのか」「家族だけで対応できるのか」などの意見があり、不安が大きいことがわかります。

私達訪問看護では「その人らしく生きること」を大切にしながら、本人や家族の希望にできる限り寄り添った看護サービスを心掛けています。

最期を自宅で迎える場合は、毎日の訪問も可能であり、緊急時は時間を問わず訪問させていただいております。自宅で点滴や痛みのコントロールが必要な場合も、医師や薬剤師と連携をとりながら、安心して過ごせるようお手伝いさせていただきます。

当ステーションは病院併設のため、病院で働く各分野の専門看護師・認定看護師・特定ケア看護師からアドバイスが受けられる環境であり、必要時に連携をとりながら安全で安心なサービス提供ができるよう業務を行っています。

以上私達について少し紹介させていただきましたが、自宅看取りの他にも自宅で安心して暮らせるよう、多職種チームで協働して活動しています。病気や暮らしに関することなど、お気軽に訪問看護にお問い合わせ下さい。

まだまだ未熟な私達ではありますが、この丹南地区になくてはならないステーションになれるよう、これからも地域に根ざした看護サービスを心がけていきたいと思っています。今後ともよろしくお願いたします。

1)「日本財団 人生の最期の迎え方に関する全国調査」

https://www.nippon-foundation.or.jp/app/uploads/2021/03/new_pr_20210329.pdf



— 新しいMRI装置について —

放射線室 室長 小南 博子



2023年12月4日から新しいMRI装置が稼働しました。今までと同様の3T(テスラ)の装置です。そこで新しいMRI装置についてご紹介します。「今までと何が変わったのか」についてですが、皆さんに目に見えてわかることが3つあります。

1つに検査環境の改善です。壁に埋め込まれたモニターには、いろいろなコンテンツ映像が流れ同時に音楽を流すことができます。これにより、今までより快適な検査環境を提供できているのではないかと思います。

また検査の進行具合や息止め時間の目安などを表示することも可能で、耳が不自由な方、閉所恐怖症の方の不安や苦痛を少しでも解消できるのではないかと思います。特に小児の検査においても有効との報告がされており、4~6歳の小児を対象にした研究で鎮静をかけなくてはならない件数

が57%から5%に低減できたそうです。

2つ目に検査時における騒音の低減です。今までヘッドフォン・耳栓をしても工事現場以上にうるさい騒音には苦痛を感じる方もおられました。新たな技術により検査音ノイズを40~80%低減することができるようになりました。

3つ目に撮影時間の短縮です。高い分解能、コントラストのまま撮影時間を8割ほどに短縮することができます。ただ残念なことに騒音の低減と撮影時間の短縮は反比例の関係であり、患者さんの状態、検査部位によって使い分けることとなります。

技術の進歩は目覚ましく、今回の装置の更新により今までできなかった撮影も可能になりました。今後も確信が持てる画像診断を提供していきます。どうぞよろしくお願いいたします。



公立 丹南病院

〒916-8515 福井県鯖江市三六町1丁目2-31

TEL 0778-51-2260 FAX 0778-52-8620

Eメールアドレス info@tannanhp-jadecom.jp

https://www.tannanhp-jadecom.jp/

公立丹南病院 在宅事業部

居宅介護支援事業所 TEL 0778-51-5411

訪問看護ステーション TEL 0778-52-2050

〒916-8515 福井県鯖江市三六町1丁目2-31 FAX 0778-52-2151

Eメールアドレス zaitaku@tannanhp-jadecom.jp

通所リハビリテーションセンター なごみの里 TEL 0778-51-5234

〒916-8515 福井県鯖江市三六町1丁目2-31 FAX 0778-51-8242

Eメールアドレス nagominosato@tannanhp-jadecom.jp

病児・病後児保育所「えくぼ」 TEL 080-6367-6567

